

# 自分に該当するものを見つけてみよう！



これらは全て「SDGs」の目標達成につながる行動の一例です。  
一人ひとりが自分の行動と「SDGs」とのつながりについて考えてみましょう。

17の目標とその具体的な内容	私たちにできること	17の目標とその具体的な内容	私たちにできること
<b>1</b> 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	募金活動に協力しよう！	<b>10</b> 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する	いじめや差別をしないようにしましょう！
<b>2</b> 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	地元の農畜産物を食べよう！	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを 包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する	防災マップで避難方法を確認しよう！
<b>3</b> すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	健康診断を受けよう！	<b>12</b> つくる責任、つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する	食品ロスをなくそう！
<b>4</b> 質の高い教育をみんなに すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	読書を習慣づけよう！	<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	買い物にはエコバッグを持参しよう！
<b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	「女性だから」「男性だから」と決めつけないようにしましょう！	<b>14</b> 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	海岸・河川の清掃活動に参加しよう！
<b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	蛇口はこまめに閉めよう！	<b>15</b> 陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	植物を育てよう！
<b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	使わない電源は落とそう！	<b>16</b> 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	防犯教室に参加しよう！
<b>8</b> 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する	効率よく働き、しっかり休もう！	<b>17</b> パートナシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	地域の行事に参加しよう！
<b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	まちづくりに意見を提案しよう！		

\*1 ある概念がより一般的な概念に包み込まれること

\*2 男女の性

**12** つくる責任、つかう責任  
**12** 10年間続けている  
ごみ拾い

毎月1回、日曜日の朝9時ごろから、リナシティかのやと仲町アーケード周辺のごみ拾いを行っています。開催日はSNSでお知らせし、当日集まった方と一緒にしていますが、一人で行うときもあります。

活動を始めたのは10年前。きっかけは車を運転しているとき、道端に捨てられているたくさんのごみに気づいたことでした。そのときとても悲しい気持ちになり「自分が住むまちをきれいにしたい」と思い、一人で捨ててあるごみを撤去。その後もできる範囲でごみ拾いを続けました。その頃たまたまお話しする機会があったのが、鹿児島



事例3  
環境

くらかけ さとみ  
鞍掛 里美さん  
(実行委員長)

まるごみ大隅実行委員会



公式 Facebook



▲捨ててあるごみの中で多いのは、たばこの吸い殻や飲み物の空き缶など

**17** パートナシップで目標を達成しよう  
**17** 生まれ変わる交流

それから10年、毎月活動を行っています。残念ながら、落ちていたごみの量は10年間でかなり変わっていませんが、活動する中で、「頑張ってるね」と声を掛けていただいたり、お菓子や飲み物の差し入れをいただいたり、地域の方との交流も生まれました。

以前も「広報かのや」に掲載されたことがあり、その記事を読んで親子で参加してくれるようになった方もいます。そんなつながりがうれしいです。

私たちが続けてきた活動は決して特別なことではありません。当たり前前の行動が「SDGs」につながっているのはとてもうれしいですが、あまり意識せずこれまで通り続けていきたいです。

ごみ拾いは、受けた恩をその人に返す「恩返し」ではなく、誰かに送る「恩送り」だと思えます。恩を送ることで思いやりの心が循環し、いつか巡り巡って未来の自分にも返ってくると娘たちにも話しています。

一人ひとりが思いやりの気持ちを持ち、ごみを捨てなければ、まちが汚れることはありません。ごみ拾いをする必要がないくらい、きれいで住みよいまちになればうれしいです。

ごみ拾いの必要がないきれいなまちに



▲拾ったごみはきちんと分別を行ってから、所定の収集場所に運びます。